



TITLE:

密度汎関数法を用いたNO還元用代替触媒探索

AUTHOR(S):

蒲池, 高志

CITATION:

蒲池, 高志. 密度汎関数法を用いたNO還元用代替触媒探索. 京都大学化学研究所スーパーコンピュータシステム研究成果報告書 2018, 2017: 72-72

ISSUE DATE:

2018-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/230772>

RIGHT:

密度汎関数法を用いた NO 還元用代替触媒探索
DFT-based screening of NO reduction catalyst

福岡工業大学 工学部 生命環境科学科 蒲池高志

研究成果概要

現在ガソリン車の排ガスに含まれる NO_x を還元する触媒として Pd、Pt、Rh などのレアメタルが使われている。これらレアメタルに大きく依存しない社会の構築は長期的課題であり、「元素戦略」として様々な取り組みがなされている。本研究では、密度汎関数法を用いた網羅的な計算により、NO_x を還元する触媒として最適な2成分合金を探索している。これまでの計算から、N-O 結合開裂の活性化エネルギーは金属の表面エネルギーと関連していることが明らかとなっている。そこで、密度汎関数計算に基づいた AFLOW データベースに登録されている 337 種類の2成分合金について、最も安定な面の表面エネルギーを京都大学化学研究所スーパーコンピュータシステムの CASTEP プログラムを用いて決定した。現在、この計算結果から有望と予想される2成分合金について、N-O 結合開裂の活性化エネルギーや反応熱を計算しており、将来的には新触媒の開発につなげたい。

発表論文(謝辞なし)

1. “TiO₂-Supported Re as a General and Chemoselective Heterogeneous Catalyst for Hydrogenation of Carboxylic Acids to Alcohols”
T. Toyao, S. M. A. H. Siddiki, A. S. Touchy, W. Onodera, K. Kon, Y. Morita, T. Kamachi, K. Yoshizawa, K. Shimizu, *Chemistry – A European Journal*, **23**, 1001-1006, (2017). Selected as "Cover Article"
2. “メタン活性化を目指したインフォマティクス”
蒲池高志、斎藤雅史、辻雄太、吉澤一成, *Journal of Computer Chemistry Japan*, **16**, 147-148, (2017)
3. “Combined theoretical and experimental study on alcoholysis of amides on CeO₂ surface: A catalytic interplay between Lewis acid and base sites”
T. Kamachi, S. M. A. H. Siddiki, Y. Morita, Md. N. Rashes, K. Kon, T. Toyao, K. Shimizu, K. Yoshizawa, *Catalysis Today*, **303**, 256-262, (2018).